

県内復興・経済日誌（2021年2月）

1日

《県オリジナル酒米「福乃香」の魅力、動画で紹介》

県は、15年をかけて開発した県のオリジナル酒米「福乃香」を題材にした県産日本酒のPR動画を公開した。日本ソムリエ協会会長で「ふくしまの酒マイスター」を務める田崎真也さんが出演、柔らかな甘みや繊細さ、酸味が調和した豊かな味わいを紹介している。

2日

《2021年度復興関連予算、ピークの1/4》

県は、一般会計総額が1兆2,585億円となる2021年度予算案を発表した。東日本大震災の復興事業や2019年の台風19号被災による復旧事業の減少などで、2020年度当初予算に比べ12.7%減った。一般会計のうち復興関連は2,585億円で、ピークの2016年度（1兆384億円）の4分の1となった。

5日

《郡山の2社が共同開発した新飲料「ライズ カカオ」発売》

郡山市のコーヒー店「富久栄珈琲」と発酵食品製造の「宝来屋本店」は、カカオと米こうじの新たな発酵飲料「ライズ カカオ」を発売した。郡山産の最高級米「ASAKAMAI887」が原料の米こうじとカカオを一緒に発酵させた。商品名には、コメの「ライス」と立ち上がるという意味の「ライズ」を掛け合わせ、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興や地域活性化への願いが込められている。

《広野産バナナ「JGAP」取得》

バナナの特産品化に取り組む広野町と同町復興公社は、同町産のバナナ「綺麗」が、衛生管理体制などが優れた農場にお墨付きを与える国内認証制度「JGAP」を取得したと発表した。農薬を使用せず、皮まで食べられるほど安全安心なプロセスでバナナを栽培しているとアピールしていく。

8日

《浪江町で新公共交通実証実験スタート》

浪江、双葉、南相馬の3市町と日産自動車などは、浪江町で電気自動車（EV）や自動運転技術を活用した新公共交通サービスの実証実験を始めた。最新技術の活用で住民の高齢化が進む被災地の交通課題解決を図るとともに、今後は実験の成果を基に過疎地などで活用可能な新公共交通の確立を目指す。

《「福島新エネ社会構想」改定》

政府は「福島新エネ社会構想」を改定し、2030年度までに、県内で電力の全てを再生可能エネルギーでまかなう工業団地を整備することなどを盛り込んだ。再生可能エネルギーの導入拡大を図りつつ社会での活用を進め、全国に先駆けた新エネルギーの産出拠点づくりを目指す。

13日

《相馬市、国見町、新地町で震度6強》

午後11時7分頃、本県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、相馬市、国見町、新地町、宮城県蔵王町で最大震度6強を観測した。この地震により、県内各地で建物への被害や、停電、断水が発生した。また、東北新幹線は電柱等が損傷し、那須塩原駅－盛岡駅間で不通となったほか、常磐自動車道では相馬インターチェンジ付近で下り線ののり面が崩落し道路をふさぐなど、インフラへの被害が出た。

18日

《「エール」×福島市、「ロケーションジャパン大賞」準グランプリ受賞》

1年間で最も地域を盛り上げた映像作品とその地域を決定する「第11回ロケーションジャパン大賞」が発表され、NHK連続テレビ小説「エール」とロケ地となった福島市が準グランプリに選ばれた。地域を挙げた「エールと古閑裕而」のまちづくり、ロケ支援体制などが評価された。

26日

《県内教育旅行、震災後初の前年度割れ》

県が発表した教育旅行入り込み調査の結果によると、2019年度に県内で教育旅行を行った学校数は6,941校で、延べ宿泊者数は516,525人だった。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後初めて、学校数と延べ宿泊者数が前年度と比べ減少した。県は新型コロナウイルス感染拡大などにより、教育旅行のキャンセルが相次いだことを要因の一つとしている。

28日

《第一原発3号機、燃料取り出し完了》

東京電力は、福島第一原発3号機の使用済み核燃料プールからの核燃料取り出し作業で、最後の使用済み核燃料6体の搬出を終えた。2014年に完了の4号機に続き2基目で、炉心溶融（メルトダウン）を起こした1～3号機では初めてとなる。東京電力が2020年度内に3号機的全燃料566体を搬出するとしていた目標を達成した。